ガロ

1992 6

…0日第3種郵便物認可
…別扱承認雑誌2343号
…29巻第5号通巻329号
（毎月1日発行）

特集 ねこぢる

ねこぢるインタビュー　黒川創　知久寿焼　松尾スズキ　スージィ甘金　岡崎京子

ガロ名作劇場❺ つげ義春『チーコ』 インタビュー　『おざ式』のこと：赤瀬川原平

「妖奇伝」・叢書刊行記念 水木しげるインタビュー

内田春菊　根本敬　沼田元氣　唐沢商会　ＱＢＢ　ひさうちみちお　泉晴紀　三橋乙揶

大越孝太郎　杉作Ｊ太郎　イタガキノブオ　久住昌之　友沢ミミヨ　上野昂志

440yen

CARTOON: NEKOJIRU　PHOTO: HITOSHI IWAKIRI　DESIGN: KEN'ICHIRO HARAGUCHI

月刊漫画ガロ6月号目次

境場のおっさん 背番号10. 1992

表紙イラスト●ねこぢる　目次イラスト●知久寿焼
表紙フォト●岩切等　表紙デザイン●原口健一郎

特集 ねこぢるうどん

黒川創　中ザワヒデキ　根本敬

岡崎京子　スージー甘金　知久寿焼

土橋とし子　松尾スズキ　望月かつひろ

夢の不穏

黒川創

小さい頃、熱を出すと、必ず決まった夢を見た。それは、家のすみっこから、クロンボの人形のようなものが、ぴょこぴょこと現われてくるようなもので、それが夢か現実なのかさえ、はっきりしない。だが私は、〝彼〟と出会うことによって、自分がすでに熱を出していることを、感じるのだ。

幼い頃の夢は、不穏な力を持っている。

高い鉄橋のような場所から、落下しつづける夢も、よく見た。近所の寿司屋の前からタクシーに乗ると、運転手がピノキオだったという三歳の時の夢も、覚えている（私はピノキオとかピエロとかが恐かった）。そして、昼間でも、家のすみっこの暗がりからクロンボの〝彼〟やピノキオが現われるのではないかというおびえは、小学校に入り、その家から引っ越すまで続いた。

ねこぢるの作品の不穏さは、そんな夢の感触に似ているように私は思う。

まあ、そうした感触は、いまも多少、私の中に残ってはいる。本を読みながら、ごく短い眠りに落ちていることがある。そんな時、眠りの中で、ストーリーは条理の枠組みから抜け落ちて、奇妙きてれつな形にふくれあがる。原稿を書きながら（というか、うまく書きすすめられないで筆が止まっているあいだに）、眠りに落ちることもある。すると、夢の中で、思考は舵を失ったように勝手気ままな増殖をはじめ、やがて正気（？）を取り戻した私は、その夢の続きを原稿に記録するような具合いになるのだ。

オーストラリアの先住民、アボリジニは、夢と現実とのあいだに特に区別を立てないのだという。ヴィム・ヴェンダースの映画作品『夢の涯てまでも』も、そうしたアボリジニの感覚を、下敷としている。そこでは、夢を乱開発し、喰いつぶしていく者は、やがてその夢のほうから、逆に喰いつぶされることになる。〝夢〟と〝現実〟とは、ひとつの世界として地続きで、人はいつのまにか〝現実〟から〝夢〟の中へと踏みだしていってしまうのだ。

ヴェンダースは、ハイヴィジョンなどのテクノロジーを動員して、その〝夢〟のディテールを細緻に描きだすことをめざした（ただし、その試みは必ずしも成功していない）。それと反対に、ねこぢるの場合は、極端に幼稚なポーズを通して、同様の世界に手を差しだしているように見えるのが私には面白い。だが、いっけんラフに感じるねこぢるの絵も、けっして、いわゆる〝へたうま〟ではない。大胆で視覚的な構図、書き文字の図像化、そして、スクリーントーンの凝った使い方なども含めて、一コマ一コマにたっぷりとニュアンスを持たせようとする点は、彼女独自の持ち味だろう（方法論としては根本敬の正反対だ）。まあ、アヴァンギャルドに通じる道は、いろいろとあるわけである。

夢の中では、ニンゲンの底に眠る〝加虐性〟とか〝悪意〟とか、もろもろのものが渦巻いている。だから、われわれは自分の夢のおぞましさにうんざりもするし、しばしば、それにそっと蓋をする。それは、それでいい。しかし、時おり、ねこぢるみたいな臆面のない漫画家が現われて、ぬけぬけと、その夢の蓋をあばいていってしまうわけである。まあ、そういう場合に限って、ニンゲンにとっての快楽のツボも、一緒に眠っていることは事実なのだ。

『ねこぢるうどん』の背景に描き込まれている風景は、見たところ、一九六〇年代か、せいぜい七〇年代初頭という感じである。その点、いっけん『ちびまる子ちゃん』とか『となりのトトロ』といった〝懐かしモノ〟に通じるところが、ないわけではない。だが、『ねこぢるうどん』には、それら〝懐かしモノ〟に共有される何かが、決定的に欠けている。

欠けているもの――それは、たぶん、いったん大人に成長した者が過去を振り返るという、秩序立った視線だろう。安定したノスタルジックな視線――そうした視線の中では、誰も、小猫のキンタマをえぐり出したり、ボケ老人をいたぶったりはしない。だが、幼い頃からの夢の形を引きずってしまっている者たちは、実は、いまもどこかで、そうした無体な殺生を繰り返しているものなのだ。

ちょっと耳にはさんだところでは、ねこぢるの正体は、二四歳ぐらいの女性らしい。だとすれば、『ねこぢるうどん』の街の風景は、実体験にもとづくものというより、いわば、彼女の既視感の中に浮かんでいる風景なのかもしれない。いずれにせよ、このような風景を、平然と脳髄の中に浮かべている不穏さに、私は好感を抱いている。

ほかほか家族王国
第2回「となりの若夫婦」の巻
山野さん
あ〜、この人達
変、何ンか
死人みたい
気持悪〜い
オーイ母さん、サイフサイフ
ワッハッハッ
まったく
ノンキなんだから
母さんは
ブ〜ン
他人の正体
物の本質をパッと見抜く
ねこじるの正直者
こら、○○(ねこじるの本名)そんな事云ったら
失礼じゃないか、ご近所なんだからね
山野さんも同時に見抜くが
社会性をもって夫婦間のバランスをとり、世に適応。
ブーン
ねこじる
今日はバーゲンよ、私
死ぬ気で買いあさるわ
ママ、デパートで
プリン食べようね
ブーン
根本敬

① ねこぢる退化(?)双六(にゃっ太編)

ふりだし

ふりだしに戻る

一回休み

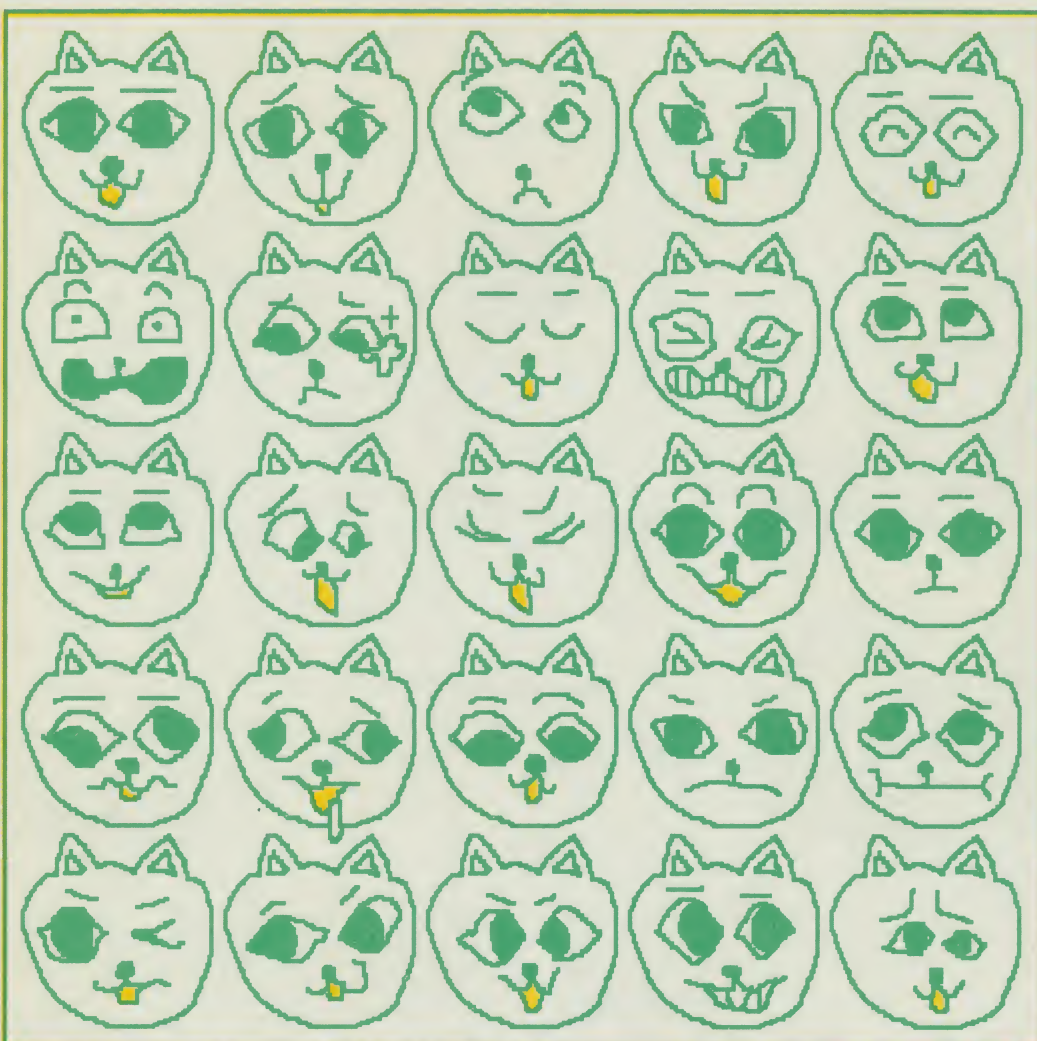
ばつゲーム

上がり!!

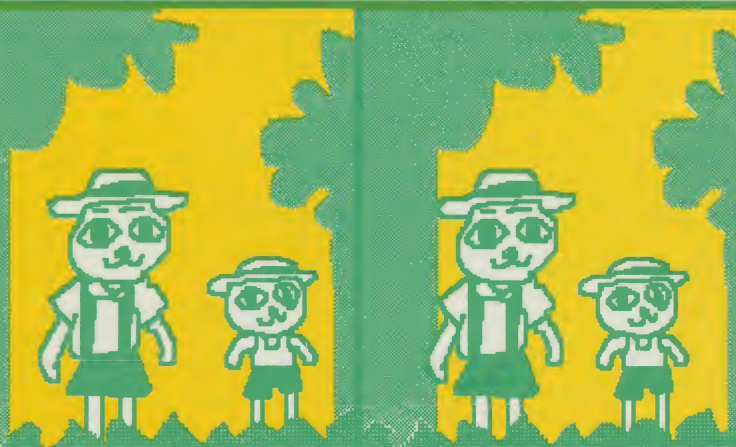
SUGOROKU

cat story

②にゃーこの25面相変化（美ニ：スージエ 墨作品）

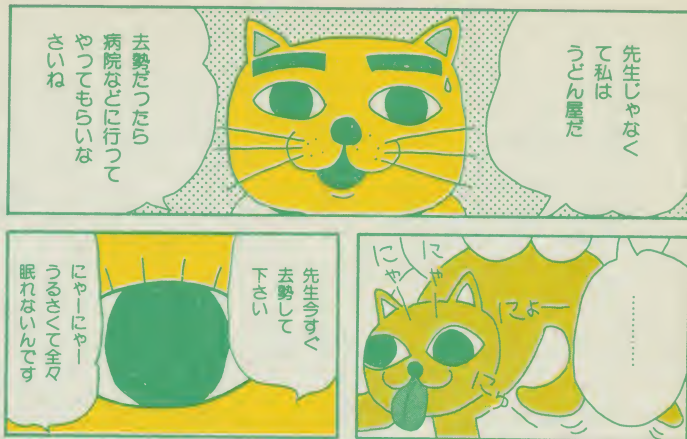
③ねこぢる 3-D スナップ

★立体視の方法

左右の絵の間にポストカード等のついたてを置き上からのぞきこむ（右図）。
遠くを見るようにして左右の像を重ねる。（平行視）

とび出す
ねこぢる
姉弟。

ガロ90年9月号 "さばの天ぷらの巻"

ガロ90年6月号 "ねこぢるうどん" 第一作

ガロ90年12月号 "へんなももの巻"

ダイジェスト版 ねこぢるうどん

ガロ90年11月号 "のぐちひでよの巻"

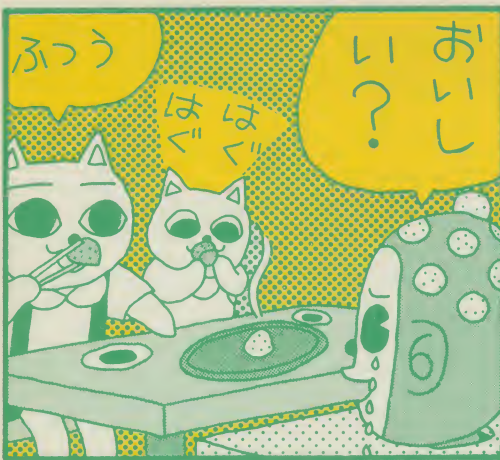
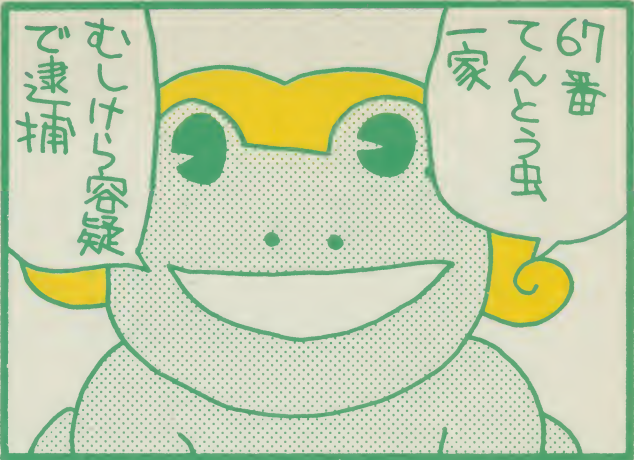
ガロ90年10月号 "いいさかなの巻"

ガロ90年7月号 "かぶと虫の巻"

ガロ91年6月号 "かたつむりの巻"

ガロ91年1月号 "しっこちっこぴゅーしゅーの巻"

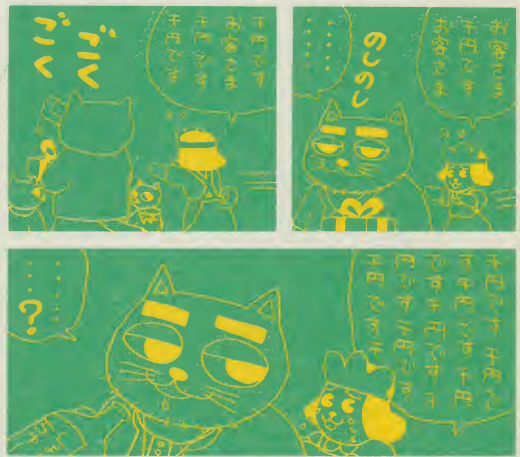
ガロ91年5月号 "がの巻"

ガロ90年8月号 "じてんしゃでゴーの巻"

ガロ91年8月号"たんこぶ屋の巻"

ガロ91年10月号"ねこさいばんの巻"

ガロ91年2/3 月号"□ぬごろしの巻"

ガロ91年4月号"大魔導師の巻"

ガロ91年12月号"たましいの巻"

ガロ92年2/3 月号"かわらのこの巻"

ガロ92年1月号"クリスマスの巻"

ガロ92年5月号"やまのかみさまの巻"

ガロ91年9月号"川ぞいの家の巻"

ガロ92年4月号"じじいの巻"

お待たせしました「ねこぢるうどん」
単行本いよいよ発売！

7月発売予定

予価1000円(本体971円) 4/6判上製

青林堂

読者プレゼント

今回の特集の為に、福岡のファッションビル Matsuya Ladies さんが御厚意で宣伝用の「ねこぢるうどん」プレミアムグッズを提供して下さいました。巻末のアンケート葉書に御希望の商品を明記の上、奮って御応募下さい。

ブローチ（10名様）帽子（4名様）Tシャツ（5名様）
ポーチ（2名様）お弁当箱（2名様）
巾着袋（10名様）シール（10名様）ポスター（25名様）

尚、締切は6月20日、当選者は8月号読者サロンで発表させて頂きます。

協力 MATSUYA Ladies

ゲームの世界に生まれたかった

——本誌で好評連載中の「ねこぢるうどん」。作者である、ねこぢること山野夫人と山野一氏にインタビュー。山野氏の「ねこぢるうどん」への関り方や発想の源、そして山野漫画の基盤を語る。——

ネコしか描けなかったんです

——『ねこぢるうどん』を始めた切掛というのは。

山野 僕の漫画の手伝いをやりたいと、いつも言ってたんですが、絵のタッチが全然違うんで、絵に合ったストーリーを創ったんです。

——では、山野一で描いている漫画と『ねこぢるうどん』の原作は、別個の物として考えているんですか。

山野 『ねこぢるうどん』はもう完璧にねこぢるの物だから、気に入らないと言われればネームを書き直したりしています。絵は何とか描けるんですが、漫画の形に体裁を整える作業が出来無いんで、僕が手伝っている様なものです。

——構成を山野さんが。

山野 コマ割とかが、苦手なんです。元々紙にイタズラ描きをしていた様なものだから。たまに僕の考えも入ったりする事もありますが、これならいいという物であれば入れてます、ダメな物も結構多いけど(笑)。〝ねこさいばんの巻〟は、僕の原作なんですが、嫌われてますね(笑)。

ねこぢる ネコだけでも充分幼稚なのに、その上虫まで出てくると、幼稚すぎる感じがしたから(笑)。

——主人公がネコというのは?

山野 ネコしか描けないんだよね(笑)。元々イタズラ描きで描いてたのがネコなんですよ。だから理由とか、意味なんて無いんです。

——では、人物等は山野さんが描かれてるのですか?

山野 キャラクター、背景等のデザインで、若干アドバイスする事はありますが、実際に描くのは彼女です。

——〝ねこぢる〟というペンネームには、何か由来があるのですか。

ねこぢる 昔、二人で汁っていう言葉はキタナイなんて冗談で言っているうちに、自然に生まれたんです。

山野 〝犬汁〟とかね。オレンジジュースって言うと綺麗だけど、〝オレンジ汁(じる)〟と言うとキタナイ感じでしょ(笑)。

——一番気に入っている作品は何ですか。

ねこぢる 〝大魔導師の巻〟です。これは自分から魔術師が出てくる話を創って欲しいと頼んだ位で。

山野 結末は、家も家族も捨ててサーカスに付いて何処かに行っちゃう方がいいと言われたんですが、そうすると次の話が創れなくなってしまうんで(笑)、家族の元に留まらせました。

——〝山のかみさまの巻〟にも、ドーガ様の様なキャラクターが出て来ますね。

山野 全く同じ顔で衣裳だけ違うんですけど(笑)、これも魔術師というか、超能力者が出てくる話を創ってくれというリクエストがあったもので。

ねこぢる 〝大魔導師ドーガ〟というキャラクターは、『ファイナル・ファンタジー3』だったかな、それそのものが出てくるゲームがあるんです。下僕の様なネコちゃん達を従えていて、カッコイイんですよ(笑)。

山野 僕はやって無いから分からないんですが、彼女はゲームに入り込むとボロボロ泣いてたりしますよ(笑)。ファミコンのロールプレイングのゲームが好きで、それに入っちゃうと、中々仕事をやってくれないんです(笑)。一日二十時間位やってても平気で、ゲームの世界に生まれれば良かったなんて言ってるくらいなんです。

ねこぢる 『ファイナル——』とは別のゲームなんですが、自分の為に命を捧げてくれるというのに凄く感動しちゃって、知らないうちに涙が出てきた。

山野 でもゲームソフトが子供に及ぼす影響は漫画の比じゃないですね、多分。表面上は勇気だとか冒険だとか謳ってますが、あんな有害な物は無いと思いますね(笑)。人間を虜にするだけの魅力を持ってますから。

——自分達の漫画をゲームに出来たら、

表裏差の激しいところが魅力

スージー甘金
（イラストレーター）

一見すると「キティちゃん」風なかわいらしい(?)ファンシーなキャラクター(?)が登場するのとは裏腹に、人を喰ったような内容で、かつきわめて残酷!という表裏差の激しいところが「ねこぢるうどん」の魅力の一つだと思います。読み終わった後、いつも頭の中に無理矢理天使と悪魔を一緒に入れられて、グチャグチャにかきまわされたような妙チクリンな気分になるのは私だけでしょうか!?

なんて思いますか。

山野　大変そうだけど、面白そうですね。世界そのものを創れますからね、こぢんまりとした世界の雛型かもしれませんが。ゲームをやっていると、ゲームと現実世界を重ねちゃうところがありますよね。ゲームの中のキャラクターが、そのプログラマーを知る事が絶対不可能な様に、現実の世界で動かされている我々人間がこの世界そのものをプログラムした創造主というか、神の様な者を認知する事が不可能であるみたいな、そんな馬鹿な事を考え出しちゃうんですよ。

——漫画家も紙の上での創造主になれますよね。

ねこぢる　自分はユーザー的な立場で見ているのが楽しいんだと思う。

——以前、ねこぢるさんの見た夢が題材になっている話もあるとお聞きしましたが、夢の話はよく使われるんですか。

山野　漫画の全てでは無いけど、何本か混ってます。とりとめの無い話を、後ろで話してたりするのを書き留めて、漫画にしたりする事もあります。

——日常話している中で、何か面白い事があるとメモして置くんですか。

山野　そうですね、見た夢の事とかよく話しますが、夢ってどんどん流れて行くから首尾一貫してないでしょ。そのままだと余りにも散漫になるので、漫画の形に多少は脚色してますけど。訳の分からないイメージみたいな物を無理矢理漫画にした事もあります。

——夢以外に作品の題材となっている物はありますか。

山野　大体、描き始める一時間位前に話を創るんですよ。だからその時偶然思いついた事をパッと描いてしまうんで、根がどこだったかなんて、ハッキリしない事が多いですね。

——では、潜在意識が描かせている様な処があるんでしょうか。夢ってそういうものですよね、『ねこぢるうどん』を読むと、悪い夢を見ていて、ハッと目覚めた様な気持ちになる事がありますけど。

山野　そんな上等な物じゃ無いですね(笑)。バタバタした中で描いてますから首尾一貫して無い事が多いんでしょう。

——漫画の中で、ネコ姉弟の子供らしさがリアルに描かれていると思うのですが、実際に子供の頃の体験等が、題材になっていたりするんですか。

山野　ソーセージの話(かわらの子の巻)は、そうだよね。

ねこぢる　幼稚園の時、親戚の家に遊びに行ったら、その家の前に住んでいるビンボー臭い子供が(笑)「一緒に遊んでくれたら、ソーセージあげる」って言ったんです。自分はそれまで真赤なソーセージを見た事も食べた事も無くて、何だかよく分から無いけど貰おうとしたら、いとこに「そういう物は、食べると体に毒だから。」って止められました。

川の色が赤や緑に

——(笑)。よく背景に描かれている、電信柱のある一本道や、工場や石油タンクなんかはお二人が子供の頃に見た原風景なんですか。

山野　原風景なんて立派な物じゃないですけど(笑)、石油タンクは僕の方ですね、四日市だったんで。非道い所でしたよ(笑)、ひたすらタンクだのパイプだのが入り乱れてる様な。毎日川の色が変わるんですよ、繊維の染物工場があって、その日に染める色で川の色が決まっちゃうんです。緑色の川とか、赤い色の川とか、日野日出志さんの漫画の様な世界でしたね。

——畸型の魚が上がったりしたんですか。

山野　いたでしょうね、釣とかしなかっ

山野氏の自宅にて

気持いいっす。　松尾スズキ（役者）

狂った人間の目つきの描写にリアルを感じます。逃げてない所が好きです。残酷にして牧歌的な現代のグリム童話。ガロの読者に読ませるのなんかもったいない。小学三年生とかでドラえもんの隣りに連載して欲しい。とにかく「ねこぢるうどん」は我々表現に関っている人間が仲々真正面から立ち向かう事が辛い闇の部分を、ノホホンと土足で濶歩するアナーキーさに満ちていて気持ちいいっす。本当ですよ。

バリ島旅行のスナップ

たんで分からなかったけど(笑)。コンビナートからかなり離れた海水浴場でも、タールの様な物が浮いているんです。泳いでいるとそれが肌に付いたりして、ギトギトでちょっとやそっとでは取れないんですよ。僕の親父は公害をタレ流す方だったんです、××化成という所に勤めていて、そこの環境課に居たんですよ。そこへ〝団結〟なんて書いてあるハチマキを絞めた住民が山の様に訪れると、曖昧な笑いを浮かべながらお茶を濁す様な役目だったんです(笑)。それで、僕の小学校の担任が…これが日教組の豚みたいなオールドミスで、ひどい喘息持ちなんですよ。こいつが公害反対住民同盟の運動員で、まだわけもわからない子供に企業がいかにひどい犯罪を犯しているかという事を述べたてるんですよ。ゲホゲホあさましい程せきして油汗ダラダラ流しながら…。だから子供ながらに教室で肩身が狭いったらない(笑)。それで、親父がローカルのTVに出てたりするのを観て、当時は純真な子供でしたからイヤな物を感じましたけど、今はなんとも思わないですね。

――一番先頭に立って、交渉を受ける立場だったんですか。

山野 そうですね。コンビナート関係の従業員とかは、実際喘息を持っていても届け出をするとマズいんですよ。そこに勤めている人だけが行く喘息の診療所があって、そこから至近距離に直径が10m以上で、曇りの日には先端が雲に隠れる様な巨大な煙突があるんです。先からモウモウと煙が出ているのを見て、ここでは雲を製造してるのかと思いましたね(笑)。幼稚園に入る前位の時でしたが。

――メルヘンですね。

山野 嫌なメルヘンですけどね(笑)。しばらくしてから、余り空気が悪いんで郊外へ引越しましたけど。コンビナートのすぐ近くだと非道いみたいで、体育館の窓ガラスが二重になっていて、エアクリーナーをかけないと子供が運動出来無いんです。表に出て「ワー」なんて走ると、バッタリ倒れたりするんですよ(笑)。走るとイヤな空気を思いきり吸い込みますから。

――ねこぢるさんの子供の頃の環境は、どんな所でしたか。

山野 普通の所だよね。埼玉県の住宅地みたいな所で、近くに団地があって、何でこんな所に住んでるんだろうと思ったって言ってたよね(笑)。

ねこぢる どうしてこういう所に人が住んでるのか理解出来無かった。自分は普通の一建家に住んでたんですけど、近くに公団住宅みたいな二階建ての建物が一杯並んでる、迷路の様な団地があったんです。団地って必ず公園が付いてますよね、それが楽しくていつもそこで遊んでたんですけど、お父さんに、自分もこういう所に住みたいと言ったら、エラく怒られました。

――(笑)。漫画の中で、お父さんが無職で焼酎を飲んでゴロゴロしているという設定は、どこから出てきたんですか。

山野 僕らの家は、普通の家庭だったんですが、ねこぢるが小学校の頃、そういう家庭の子の家に届け物をしたんだっけ。

ねこぢる 同じクラスに登校拒否の子がいて、家がすぐ近くだったから、担任に手紙とかを渡しに行く様に頼まれて。○○○子っていうんだけど(笑)、「○○子さーん」て呼んでもアパートのドアの入口の所に居るのに、居留守使って出なかったりするんで、凄くイヤだった。仕様が無いから手紙を床の上に投げて置いてきたりした(笑)。その子は貧乏のクセに、体だけデカくて、小学五年の時に皆から「体は中二、頭は小二」て言われてて(笑)。学校にも、お母さんのワンピースにお父さんの菱形のワンポイントの付いた紺の靴下をはいて来る様な子で、皆から馬鹿にされてた。

――そういった変な人には出会う機会が多いんですか。

山野 何か呼ぶ物があるんでしょうかね。ねこぢるが新宿駅に立っていた時、雑踏のずっと向こうにいる浮浪者が、ニコニ

「ねこぢるうどん」は脳ミソが柔らかい

土橋とし子（イラストレーター）

ねこぢるさんの漫画には子どもの時の無意識の残酷さ（行動も言葉も）みたいなもんがある。世間とかいうものの中でちょっと大人みたいに生きている私にはナカナカ出せない世界になってしまっているようで、懐しくなったりうらやましくなったりするわけです。知らない間に脳ミソが硬くて四角になりつつ自分に気がついてハッとして、ちょっと悲しくなったりするけど毎月、ねこぢるうどんを読むのを楽しみにしておる次第です。読んだあとはちょっと脳ミソがほぐれた気になれます。

コしながら手を振ってるらしいんですよ、どう考えても自分に振っているとしか思えないらしくてね。

ねこぢる　働いてた時、帰りにいつも頭の足りなそうな人がバス停で後ろに並んでて。

山野　2、3mの間を行ったり来たりするのを、繰り返す人がいたんだよね。

ねこぢる　その時、雨が降ってきたから折り畳み傘を広げようとしたんですけど、カサッて音がするとその音に敏感に反応してクルッと180度向きを変えるんです(笑)。

山野　直線的な動きをする人なんだよね。勤め先の倉庫の大家さんの息子もオカシかったんだっけ。

ねこぢる　パジャマ姿でいきなりドカドカ降りて来て「ラジオが壊れた」とか「誰かが盗聴してる」とか言い出したりして(笑)。

山野　親が「そんな事してると、また病院に送るぞ」とか言うんだっけ。親の暖みとか全然感じられませんね、もう厄介者としか思ってない様な感じだね。

ねこぢる　パートのおばさんが「病院にいると、色々覚えてくるのよねェ」なんて、こっちが聴いてなくても話したくてウズウズしてる感じで話しかけてくるんです。「性の事とか古株の人が教えるらしいのよねェ」とか、嬉しそうに話してた。

——子供の頃から身近にいたんですか、例えば〝きよしちゃん〟みたいな子供とか。

山野　本当にきよしちゃんという子がいて、体を動かさないと知能が発達しないんで、よく近所の暇なおばさん連中が手伝いに借り出されて、陽気なリズムに合わせてお一、二、〳〵て体操してました

バリ島旅行のスナップ

絵がうまいのでうらやましい

望月かつひろ（漫画家）

電気カミソリで無いヒゲを一時間以上かけてジージージージー剃っているジジイはうっとおしいものだ。台所で二時間以上もうろうろゴトゴト何をしているのかとイライラしているとガスの元栓が心配で眠れないらしい。そのくせ便所の水は流しっぱなしだったりする。死んでからも幽霊になって続けられるかと思うと気が滅入る。

「ションベンでもクソでも喰らえ！」渋谷の地下道を強力なインパクトを振り撒きながらブツブツと呪文のごとく繰り返し吐きだされていたキ印のババアの名言は自分を良識ある大人に引き戻してくださった「こいつアブネー」うっとおしい奴をほほえましく見るのはムズカシイ。

「ピンキー」と呼ばれるオバサンはほころんだピンクの寝巻姿、ゴム草履の足で一日中徘徊している。その行動範囲は恐ろしく広く思わぬ所で出くわしビックリする。昔はえらい才女だったという噂だが、バランスの崩れた栄養と垢でどす黒く彫りの深い顔は印度の行者を思わせる小学生の人気者だ。前置きが長くなってしまった。変な奴のネタというのはキリがない。

さて「ねこぢるうどん」は、変な奴とネコとのからみで進行する話が印象に残るのだが、どちらも一つ目の世界の住人であり現在しか見ていないという辺りがミソだろう。

自分の漫画も先を考えずに書くことが多く、終りのほうで苦労するのだが、「ねこぢる」もあんまり考えて描いて無いんじゃないだろうかと思える時があって親しみを感じてしまう。

ただ変な奴の場合現在が幸福であっても強力な個性のため、5分後には死んじゃってたりもするわけだが、その点ネコや子供やバカボンのパパなどはけっこう踏み外さない様である。

壊れてる者はどこまでも行ってしまうが、無邪気なものはちゃんと家に帰る。(長井会長のパーティーの時、山野氏のところにとめていただいたのだが、山野夫人ことねこぢる様はちゃんと部屋にいてファミコンをやっておられた。)

まあ遊びに夢中になって友だち殺しちゃった子供とか、犯罪の一歩手前で止まるパターンをくり返すような狂人というのも少なくはないだろうから断定はできないが…

ところで山野夫妻は親切な方々でございました。今後も面白いまんがをファンのひとりとして期待しております。おわり

バリ島旅行のスナップ

抵抗する事に力尽きました(笑)

けど。

──山野さんの漫画にも、ねこぢるさんの漫画にも、そういう人はよく出てきますね。

山野　面白いと思っているから描いているだけなんです(笑)。人間のムチャクチャな状況を傍から見てるのは好きですが、その只中に放り込まれるのはゴメンですね(笑)。

──そういう部分での共通性はありますけど、先程、山野さんは自分の漫画と『ねこぢるうどん』は全く別の物だと言われましたが、ねこぢるさんの漫画をどうご覧になっていますか。

山野　僕は人に嫌われる漫画ばかり描いてますけど、それよりはちょっと人に読まれ易いかな、という気はします。

──ねこぢるさんは、山野さんの漫画をどうご覧になっていますか。

山野　イヤな漫画だと思ってたよね(笑)。

ねこぢる　『四丁目の夕日』はちょっとマニアックすぎて好きじゃないかな、貧乏人の話が嫌いっていうのもあるけど。『人間ポンプ』とか『ビーバーになった男』(※小社刊『ヒヤパカ』に収録)とか、スコンって抜けた感じでセリフ廻しのいいヤツが好きかな。映画なんかだと割と後味の悪い方が好きなんですけど、例えばクローネンバーグの『ブルード』とか観た後、凄くイヤな気持ちが残るんですが好きなんですよね。でも『四丁目の夕日』は余り好きじゃないなァ…(笑)。

──『四丁目』から『ヒヤパカ』になって、山野さんの絵は随分変わりましたね。

山野　ああ、絵は節操無く変えていきますね、担当の編集者の言われるままに(笑)。

──抵抗は無いんですか。

山野　最初のうちは、なんとか背景だけでもという感じで、控え目な態度で抵抗してたんですが(笑)、その内力尽きた感じになって今では何でも言われるままにやってます。もしラブコメ描けと言われたら描きますよ(笑)。根本さんの様な強靭な精神は僕には無かったんですね(笑)。今はもうエロ本関係でも、そんなに自由に描かせてくれませんから。兎に角絵を明るくして、高校生が読んで抜けなきゃダメなんです。理解ある様な態度を示している所でも、取り敢えず最低限可愛い女の子を出して、セックスシーンがあって、それでまぁ余った部分で山野さんらしさを出して貰えればなんて(笑)、そんな体のいい話無いですよね(笑)。

──山野さんの漫画で一貫しているのは、悲惨で本当に救いようが無いんだけど、それを笑える感じにしていますよね。

山野　僕の場合、先月号の花輪さんの様に心の奥底にある根深い葛藤の様な物を作品の中でどう解消していくかという様な深刻な描き方をしていなくて、こう言っては失礼かもしれませんが、根本さんと似たスタンスで描いているつもりなんです。自分は笑える作品を描いてるつもりで、自分の中で悲惨な事と可笑しい事にそれ程距離を感じないんです。むしろ同じ位に思ってますね。

──言うならば、笑いの〝質〟ですね。

山野　そうですね、自分で楽しんで描いてるんです。飲み屋で気心の知れた連中と話している様な事を描いてますから、なんの制約もなければ、ずっとああいう漫画を描き続けていると思います。漫画が生活の手段で無かった頃は良かったんですけど、今は編集の意向とかで、タイプの違ったのを描いてますけど。

ねこぢるうどんについて

知久寿焼
(ミュージシャン)

にゃー子とにゃっ太の表情は微妙だ。たとえば人間でいうと、喫茶店や飲み屋のテーブルをはさんで向かい合って話してるんだけど、そして相手の人は確かに自分にむかって喋ってるんだけど、その視点はぼくのはるか後ろ遠くにピントを合わせていて、右と左それぞれの目線が上から見てほぼ平行なまま、それでも口もとはいくらか微笑んでいるっていう様な気味の悪さだ。猫の口もとが「ω」なのも手伝ってはいるが。そんな、キチガイのそれっていう感じの表情のまんま、身のまわりで起こる出来事に対して、情緒的なところをすこんと欠落させたみたいな単純でまっすぐな反応をする二匹──あれっ?やっぱりキチガイみたいだなぁ。そうか。そうです、ぼくは「ねこぢるうどん」の、この淡々としてキチガイなとこに感じちゃうんですよ。でも姉弟仲いいよね。

――山野さんの漫画は、登場人物の全てに救いが無いですよね。

山野　加害者も被害者も一様に不幸だという(笑)。

――支配者と被支配者がハッキリと分かれていますよね。『四丁目』に〝世の中には奉仕する者とされる者との二種類の人間がいて、それは地下鉄の駅の様に明確に区切られている〟というセリフがありましたが。

運命からは逃れられない

山野　惨めな境遇にある者が、幸福になるなんて、絶対に許せないですよね(笑)。正しくないですよ。僕は正しい漫画を描いているのにな(笑)。理不尽な差別を受けて、皆から嫌われ蔑まれている者が爽やかな幸福を手に入れるなんて誰も納得しませんよ。

――その考え方は、何時頃から固まったものなんですか。

山野　何時頃からなんでしょうね、世間で誰からも〝コイツは駄目な奴なんだ、自分がどう転んでもコイツ以下の人間には成ら無いんだ〟って思われている様な者が幸福に成るのは、人間が生理的に一番我慢出来無い事なんじゃないかと思うんです(笑)。何か自分の拠り所というか、〝支え〟が無くなりますよね。

――そういった考え方が基本になっているんですか。

山野　『四丁目』を描いている時、あの頃は貧乏だったたし、決して幸福な状況では無かったんですが、ナチの共産党嫌いってありますよね、自分が貧乏にもかかわらず貧乏が許せないという、それに似ているのかもしれませんね。この世の中を動かしているシステムの様な物に、生まれた時点で無理矢理適応せざるをえない訳ですよね、それが不条理な物であると認めつつも何とか適応しているにもかかわらず、正論なんかを言い出す奴がいると、納得出来無いんですよ。

――それは四日市時代に父親の所へ陳情に来る労働者を見ていて、培われた物なんでしょうか。

山野　そうかもしれませんね。労働者が惨めな住宅に住んで、貧しい物を喰って、という状況を強いられている様な社会構造が間違っているなんて言い出す事事態が、何かおかしいんじゃないかと思うんです。別にしっかりした理論の裏付けがある訳でも無いんですが、体質的にそうなんですね、もう、根付いているというか。

――…直感で。

山野　ええ、納得出来無いシステムで、自分に不本意な地位しか与えられてないという事に甘んじているにもかかわらず、労働運動をする、……まあ、今は賃上運動ですけど、そういう事に納得出来無いんですよ。徒党を組んで権利を主張するとか大嫌いなんです。労働者とか、日教組の教師とか大嫌いでしたね(笑)。

――山野さんは、学生時代に三畳の部屋に住んでいた事があるそうですね。

山野　それは納得出来るんです。ヒンズー教徒では無いですが、神に与えられた地位でいくら自分が納得出来なくても、それに耐え続けるしかないという考えがあるのかもしれませんね。

――運命には逆らわない主義なんですか。

山野　というよりも、逃れられ無いという所がありますね。

――自分でも逃れようとは思わないんですか。

山野　上手く言葉では説明出来無いけど、自分が幸福に成るという気が全然しないんです。

ガロ1991年4月号"大魔導師の巻"より

――流れに身を任せる、という感じですね。ところでねこぢるさんは、今後の『ねこぢるうどん』の展開をどうお考えですか。

ねこぢる　自分は向上心が無いし、イヤな事があるとすぐ拒否するんで、今は仕事があるから続けてますけど、無くなったらキッパリやめられます。一時は、このまま続ける必要も無いんじゃないかと思ってました(笑)。

――今でもやめたいと思ってるんですか。

ねこぢる　一生懸命がんばります(笑)。

1992年4月2日
文責・編集部

「やだなぁ」

岡崎京子
(漫画家)

ねこぢるさんのまんがを初めて読んだ時に「やだなぁ」と思いました。かわいいくせにすくいがどこにもなくてやりきれないのですから。ゆかいにむじゃきに「ぶちゅう」と虫をふみしだいてゆく2匹の幼いねこ兄妹。働く職工が黒こげの丸やきになって単々と死んでゆく、「ふーん」とみつめる2匹。いやな感じ。やだなぁ。でも私はこの「やだなぁ」という感じは人間が生きてゆく上でとても大切なものだと思うし実は好きです。